

平成29年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成29年9月16日（土）

午前9時～午後5時30分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、藤田委員（事業番号2から）、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、下總委員（事業番号12から）、垣内委員、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員、川村委員

市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、福土主事、阿保主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
(7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答)
2. 審査 …20分程度
(事業内容・金額について審議後、採点表に記入)
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

（公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている

必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

- （1次採択事業 変更承認申請）リーディングライブ「卍の城物語」／弘前芸術鑑賞会

【質疑応答（抜粋）】

Q：「卍の城物語」は過去にRABラジオで放送されており、DVDを販売するとなると原作者や放送局との調整が必要になると思うが、それについては問題ないか。

A：原作者には承諾を得ている。また、RABのラジオドラマと本事業の脚本家が同じなので、RABには事業について説明したところ、協力しながら進めていこうという話ももらっている。

Q：台本及びDVDを、原価より低価格で販売する理由を教えてください。

A：利益ではなく記録に残すということを重視しており、皆さんに手に取ってもらいたいという意味で価格を設定したものである。

【主な意見】

- ・最終的には自立を目的としている制度であるため、収入を得て団体負担を少なくし、自己資金で運営できるような工夫をしていただきたい。
- ・事業の変更についての、審査会での対応の仕方、及び販売額と原価の設定の考え方等は審査委員間でも共有しておくべきである。

【結果】承認

●6：「簡単な韓国語で紹介する弘前の観光と接遇」講座と、韓国文化に触れる事業

／弘前韓国語勉強会

【質疑応答（抜粋）】

Q：5回の講座後に実施する雪燈籠祭りでのボランティアガイドは、どのような活動を想定しているのか。

A：弘前駅前または弘前公園で、案内をする旨を表記した看板などを持って待機することを想定している。人数は1回あたり最低4人を想定しており、初心者と学習者など複数人で対応する。

Q：韓国語のボランティアガイドを育成するということだが、社会には多くの外国人がいる中で、その先の対応について考えていることがあれば教えていただきたい。

A：将来的には多言語のサークルなどと連携していくことも考えている。現在のところは韓国語に特化して活動する予定である。

Q：参加者のレベルによって講座内容の工夫が必要だと思うが、具体的にどのような人を対象としているのか。

A：主に初心者を想定している。まずは定型文などを学び、基本を習得した人には初心者のサポートをしてもらうなど、参加者のレベルを見ながら講座内容も工夫していきたいと考えている。

【主な意見】

- ・講座の主な対象が初心者であるため、講座からボランティアガイド実施までの期間があまり空かないよう、スケジュールを工夫していただきたい。
- ・異文化交流の要素から講座を始めるなど、初心者でも参加しやすいように、事業の組み立て方を工夫していただきたい。
- ・ベテラン学習者が初心者をサポートするなど、初心者を育成するような体制をとることで、事業を継続させ、ボランティアガイドとして活躍できる人の増加を期待する。
- ・国際理解の必要性は理解するが、国際理解と外国人のおもてなしの違いを考えた上で対応していただきたい。

【採択結果】

合計点 68.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合 計		68.2

●12：ういつちたいむ!!4／ういつちたいむ!!実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：入場料を教えてください。

A：入場料は基本的に無料である。弘南鉄道の利用促進を考えており、弘南鉄道利用者は無料で入場していただくことができる。自家用車で来場し、駐車場を利用したい方に関しては、1,000円のチケットを購入していただく予定である。

Q：当日の演奏について、撮影やSNSでの配信は可能か。

A：著作権や肖像権、配信権などの課題があり、全ての演奏での撮影や配信は厳しい。さまざまな権利やそのノウハウについても啓発していきたいので、各権利所有者と交渉し、曲ごとに可能なものは積極的に撮影や配信をしていきたいと考えている。

Q：次年度以降の計画についてお知らせいただきたい。

A：内容や運営については毎年違うアプローチをしており、次年度以降の予定については現在のところ未定であるが、定着を図るためにも事業は継続していきたいと考えている。

Q：イベント開催だけが愛好者を増やす方法ではないということだが、具体的にどのようなアプローチを考えているのか。

A：まずは、イベントでポップカルチャーの受け入れの準備をしているところである。将来的には、弘前の伝統工芸品である津軽塗やこぎん刺しとポップカルチャーをコラボさせて、世界に発信していきたいと考えている。

【主な意見】

- ・弘南鉄道にアプローチした点を評価したい。イベント内で弘南鉄道の紹介や、魅力アピ

ールをしていただきたい。

- ・駐車場に関しては係員を配置し、路上駐車などの違反が無いよう、主催者側としての配慮をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 78.3 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		78.3

● 10 : 鬼檜地域「歴史と伝説の里づくり事業」 / 歴史と伝説の里「鬼沢の会」

【質疑応答 (抜粋)】

Q : ツアー参加者の募集方法と、これまでの参加者の傾向を教えてください。

A : 参加者は新聞及びホームページへの記事掲載、チラシで募集する予定である。過去には市外からの参加者もあり、平日開催の際は主に60代～70代のご夫婦や子どもが参加していたが、休日開催の際は大学生の参加もあった。

Q : ツアーと弁士研修会の関係性を教えてください。

A : 今回の事業は、ツアーと弁士研修会の2本立てとして考えている。ツアーでは現在活動している語りの弁士1名と、笛という形でスライド上映をするが、先を見据えて弁士の養成を進めていきたい。

Q : 地域を守り伝えていくための人材育成の事業ということだが、若い世代へ継承するための下地作りと考えて良いのか。

A : 若者に継承していくという意味もあり、弁士の研修会に関しては比較的年齢層の低い30代をターゲットとして考えている。弁士に限らず、知識の習得やスライド上映の準備なども含めて次世代へ継承していきたいと考えている。

【主な意見】

- ・鬼沢地区はさまざまな伝統行事があり、市外、県外へも呼びかけをしているようなので、今回のツアーを通じて、地域の魅力をより発信していただきたい。
- ・一人で話をする弁士の育成に限らず、登場人物の年齢に合わせて複数人での語りを取り入れていくと、より楽しくなり、また、練習を通じての世代間交流など別の効果も生まれるのではないかと。

【採択結果】

合計点 80.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		80.1

● 1 : 豊田小学校通学路排雪事業／豊田小学校父母と教師の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：積雪によって実施日や実施回数に変更があると思うが、どのようにして決めているのか。

A：現在の計画では、月2回、日曜日の朝に3時間ほどかけて排雪作業を行う予定である。協力者の募集は学校を通じて事前に行うが、飛び込みでの参加も歓迎している。

Q：活動のきっかけはPTAの除雪活動ではあるが、もっと大きな目標があれば教えていただきたい。

A：豊田小学校周辺の県道は、曲がりくねって細く、豊田小学校区でも冬期間に交通事故が起きたことがある。このような場所では、一歩間違えば死亡事故につながる可能性があるのに、行政の除雪だけでいいのか、という思いがある。地域でこのような活動をする団体が増えていけば、危険箇所を減らしていけるのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・有志で始めて少しずつ人を巻き込み、協力者の増加がみられる。出発点も結果も正しく良い方向に向かっていると思う。
- ・除雪新聞内に、子どもから協力者へのお礼のコーナーなどがあれば、注目度も上がり、協力者の励みにもなると思う。
- ・通学路の確保として始めた事業だが、子ども達のみならず地域住民も恩恵を受けていると思う。PTAが行うということはなかなかないと思うので、そのノウハウを積み重ね、成果を上げていただきたい。

【採択結果】

合計点 84.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		84.3

● 8 : 20年後の昴を考えるワークショップ事業／昴町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：ワークショップ及び報告書の編集作業における住民との関わりは、どのようなものがあるのか。

A：事業の周知は、毎月発行している町会報にて行う。報告書作成時は、適宜住民の意見を取り入れつつ、推敲していきたいと考えている。

Q：子ども、大人、学生、町外の一般も含めた事業の具体的な内容や方法を教えていただきたい。

A：まず、住民に20年間の思い出や、子どもには20年後の自分達をテーマとした文章を書いてもらう。それらをもとに、北原先生から今後の展望を講演していただいた後、ワ

ークショップを行う。ワークショップは参加者全員で、昴町会のこれからの20年をテーマに話し合い、他者の意見も取り入れながら21年目を目指していきたいと考えている。

Q：ワークショップで出されたアイデアを実現につなげていくため、考えているビジョンなどがあれば教えていただきたい。

A：次年度はサポートする立場になるが、これまでの経験を踏まえて町会活動に意見をしながら、何か新しいことに取り組んでいきたいと考えている。この事業が、若い世代にも町会事業に取り組んでいただくきっかけになればと思っている。

【主な意見】

- ・事業実施の際は、北原先生や学生との関わりの中で、町会の課題をきちんと話し合い、解決していく方法を考えていただきたい。
- ・地域住民の思い出から出てくる課題や、子ども達の夢の中から見つかる課題に対して、地域がどう動けるのかということも話し合っていたきたい。
- ・学生を巻き込み、ワークショップや報告書の編集作業を行うということなので、町会が考える課題や可能性等を、事前に説明しておくことが必要だと思われる。

【採択結果】

合計点 66.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.1
合計		66.0

● 2：お弁当の日/HANDS 企画室

【質疑応答（抜粋）】

Q：講師や講演のテーマが決まっていれば教えていただきたい。

A：依頼したい講師の目途はついていますが、採択・不採択が未定であるため、打診はでき

ていない。講演については、食という大きなテーマのもと、お弁当について何かお話ししてもらえればと考えている。

Q：本事業の対象は誰か。

A：主にお弁当を作っている人を対象として考えている。大切な誰かのためにお弁当を作っている人であれば、年齢は問わない。

Q：本事業は何を目指しているのか。

A：お弁当のつめ方のコツを覚えて、お弁当作りが楽になるということをポイントにしたい。小さい箱に食材をつめることが苦手でも、他の人の写真などを見てやっているうちに楽しくなることもある。楽しく作れるようになれば、彩や栄養バランスに気を遣うなど、いろいろな意味を込めて作れるようになって考えている。

【主な意見】

- ・団体のこれまでの経験を活かして、次のステップに進むために、可能な範囲で事業を実施したいという一生懸命な想いは理解しますが、事業内容を明確にし、実施方法について再度検討していただきたい。
- ・郷土食や地産地消など、お弁当にこのようなおかずが入れられるという講演の後、実際にそれらを使ってお弁当を作ってみるなどの流れが見えればよかった。
- ・今回はお弁当のつめ方をメインとしているということだが、それを継続していくことで、津軽の食材や郷土食、塩分控えめなど事業の展開が期待できそうである。

【採択結果】

合計点 59.3点<60.0点 ⇒不採択

※審査委員 15名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.2
合計		59.3

● 5：第4回弘前城リレーマラソン冬の陣／特定非営利活動法人スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：関係団体との連携は具体的にどのようなものを考えているのか。

A：同時期に開催される雪燈籠まつりやスキーフェスティバルなどで、お互いのチラシに
お互いのイベント情報を入れるなど、周知面で協力できないか話し合いたいと考えている。

Q：夏のリレーマラソンはテレビ放送や、企業スポンサーがついている様子がうかがえる
が、本事業では難しいのか。

A：メディアには呼びかけてPRを強化していきたいと考えている。スポンサーに関して
は、年に2回同じ企業に協賛を依頼することや、協賛頼りで事業を進めていくことは事業
を継続していく上で難しいので、今回は協賛金ではなく、賞品や協賛品として協力をお願い
していきたいと考えている。

【主な意見】

- ・将来的には自立を目指しているということで、冬場の観光コンテンツの1つになってい
けると思う。
- ・夏・冬ともに参加しているチームもあるということなので、夏と冬をセットにして考え
ても良いと思う。
- ・BMIの部や高齢者の部、親子の部なども作っていただければ面白い。

【採択結果】

合計点 83.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性) が期待できる	8.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.9
合計		83.6

●14：全員集合！防災運動会／5－Between

【質疑応答（抜粋）】

Q：防災力、自助力を高めるための取り組みはさまざまなものがあるが、その中で防災運動会を導き出した経緯を教えてください。

A：より多くの人々の参加を促す方法として、訓練という堅苦しいものではなく、楽しみながら防災意識の向上を図ることを考え、防災運動会を企画した。

Q：運動会開催に当たって、1チームあたり15人～20人と設定しているようだが、競技内容とこの人数は合っているのか。

A：各競技は全員で一斉に行うわけではなく、順番にリレー形式で行うことを予定している。どの競技においても全員が関与できるよう工夫する。

Q：豊田地区の運動会とは別開催ということだが、同時開催は難しいのか。

A：この事業を企画する際に地区運動会の主催者と相談したが、既に競技内容等プログラムが確定しており、同時開催することは厳しいということであった。

Q：社会的弱者の社会参加が団体の設立目的のようだが、今回の事業に関してはどのような形でその目的を達成しようと考えているのか。

A：団体としては四肢不自由等、障がいをもった方のみならず、一人暮らしの高齢者や子ども、女性など社会的弱者になり得る人を含めて考えている。今回の事業ではそれらの人を含めて、地域住民のつながりができるコミュニティを形成していきたい。

Q：100名の集客に対して、具体的にどのような広報活動を行うのか教えてください。

A：事前に町会長へ依頼して、参加者名簿を書き込める形の回覧板を回していただく予定である。また、各学校の行事に出向く機会があるので、そのような場も活用してPRを行っていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・地区の運動会への参加を予定されているようだが、普段から顔が見える関係作りをしていただきたい。
- ・大学に入る機会がないので、ヘリコプター等大学内の見学もできるように協力してもらえばいいのではないか。
- ・大学付近の町会の他、自主防災会を組織しておらず、防災訓練等も実施していない町会へも声掛けをし、防災への意識を高めてもらう手助けになればいいと思う。
- ・大学周辺の企業にも声をかけて、参加を促してはどうか。

【採択結果】

合計点 69.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		69.3

● 3 : ゼロ・ウェイストの町を学ぶ講演会／特定非営利活動法人もったいないつがるの会
【質疑応答 (抜粋)】

Q : 講演会開催後の報告はどのように行うのか教えていただきたい。

A : 「もったいない青森県県民推進会議」が、毎年12月末に開催されており、その場で活動報告をする予定である。また、2月にヒロロで開催する「市民ボランティア交流まつり」で展示などを行いながら、市民に対して報告する。

Q : 市民が自主的にごみ問題についての話を聞きにくるような工夫があれば教えていただきたい。

A : 例えばホームセンター等で売られている腐葉土や生ごみたい肥作りに使う発酵母材は、弘前でも作れるのに、県外産のものばかりである。弘前では、それらの材料になるものを、税金を使って焼いて、お金を出して県外産を買ってきている状態である。リサイクルは消費者にとって大変なことかもしれないが、講師の方にリサイクルの取り組み方について教えていただきたいと考えている。

Q : 講演会の参加者に牛乳パックで生ごみたい肥作りに取り組んでもらう予定になっているが、できたたい肥をどうするのか。

A : 市民ボランティア交流まつりの会場にたい肥を持ってきていただければ、団体で引き取る。

【主な意見】

- ・ほかの団体等との連携があったほうが、運動を進めていくための仕組みづくりといった活動にもつながると思うので、リサイクルに興味を持っている市民に対してだけでなく、さまざまな活動をしている団体にも周知を図るようにしていただきたい。

- ・他自治体の事例ももちろん大事だが、弘前でどのように進めていきたいかということにより明白にして、他者の助けを得ながら活動していただきたい。

【採択結果】

合計点 61.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.9
合計		61.1

● 13：出逢い支援事業／NPOひろさきサポートセンター

【質疑応答（抜粋）】

Q：ネットを使って出逢える気軽さゆえに生じるような、詐欺など様々な問題への対策について、どのように考えているか教えていただきたい。

A：連絡先などの個人情報、事業の開催ごとに破棄する予定である。

Q：他の団体や企業が類似の事業を開催しているが、それらの類似事業と今回の企画に違いがあれば教えていただきたい。

A：出逢いのための場を提供するという意味では、大きな枠組みで考えると違いはないと考えている。

【主な意見】

- ・あまり参加費が安くなると、どんな人が参加して来るかわからないので、逆に怖さを感じてしまう人もいるのではないかと。
- ・出逢いを求める人のために何らかのきっかけを作ろうという思いは理解するが、信頼性が大事になる事業であるため、トラブルが起こらないようなルールを作成するなど、リスクを回避できるように実施方法を再検討していただきたい。
- ・経費の大部分がホームページ作成にかかる費用だが、無料でできるSNSを活用するこ

とでも、情報を発信できると思う。

【採択結果】

合計点 50.9 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	4.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.3
合計		50.9

● 9 : WA のりんご～もっとりんごを身近に～/A プロジェクト

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 三世代の交流といった目的があるが、具体的にどのようなことか教えていただきたい。

A : 例えば今回の申請だと、オブジェ作りのワークショップを行うときに、参加者同士が布を交換し合うことで会話が生まれて、様々な世代の思い出話をしてもらうようなことができる空間を作っていきたいと思っている。

Q : 事業の中身が、女性が好みそうな内容のものが多いので、男性が参加しやすくなるような工夫があれば教えていただきたい。

A : シールド講座は「お酒」ということもあるので、男性にも足を運んでもらえると思う。また、講師をお願いする方に男性が多いので、今後意見交換をしながら、男性の意見も取り入れていきたい。

Q : このメンバーが集まったからこそ、市民に提供できることがあれば教えていただきたい。

A : りんごに関する様々な分野に携わる人が集まっているので、将来的には、移住してきた家族や若い世代が、りんご農家になることをバックアップしたり、りんご農家の人に、今まで捨ててきたものがりんごの加工品の材料としてお金になることを提案していきたい。弘前に住んで弘前を好きになってもらうためにどのようなことができるか、探りながら事

業を進めていきたい。

【主な意見】

- ・団体構成員のそれぞれの特技を持ち寄って、それぞれの視点からりんごというテーマの中で事業を展開していこうということなので、今後様々な事業が生まれてくるのではないかと魅力を感じた。
- ・りんご農家が、このような活動があることを知ることで、仕事の励みになると思うので、ぜひこの事業を進めていただきたい。

【採択結果】

合計点 78.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.9
合計		78.1

9月16日審査結果（16事業のうち12事業）

採択とする事業	9事業
不採択とする事業	2事業
変更承認	1事業

平成29年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成29年9月17日（日）

午前9時～正午

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、藤田委員、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、下總委員、垣内委員、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員、川村委員
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、福土主事、阿保主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

9月16日に引き続き審査

《審査内容》

●7：北地区コミュニティ会議 20年の歩み（辿った足跡から未来を探る）

／北地区コミュニティ会議

【質疑応答（抜粋）】

Q：冊子を作製するにあたり、子どもの活躍する場を作るということだが、子どもが担う役割について教えていただきたい。

A：子どもたちは冊子の作製そのものには関わらないが、式典の中でボランティアとして関わってもらおう予定である。

Q：式典の際に冊子を配布するのではなく、式典当日の様子を冊子の中に加えたり、アンケートに回答してもらおうなどして、式典の中で出てきた意見を冊子に反映させてはどうか。

A：団体としては、式典に合わせて資料作りをする方向で急いで進めていたが、委員の意見を踏まえ、内容を検討し、完成の時期については、団体の中で話し合いながら決めていきたいと思う。

Q：冊子の作製に利用する資料の選定状況について教えていただきたい。

A：この冊子に掲載する資料は毎年作ってストックしてあるため、既にそろっている。ただ、式典の際に配布せず、もう少し時間に余裕ができるとすれば、少し視点を広げる形で、別の資料も含めて選んでいきたいと思う。

【主な意見】

- ・式典の中では、北地区のこれからの長期ビジョンについても発信していき、子どもたちを元気づけていただきたい。

- ・ほかの地域にもいい見本になると思うので、余裕があれば他地域にも配布したり、データを市ホームページに掲載するなど、より多くの人目に触れるようなかたちをとっていただきたい。
- ・今回作製する冊子に活動が掲載されている子どもたちが、数十年後に冊子を作るときに編集に携わるようなことになれば素晴らしいと思う。

【採択結果】

合計点 76.0 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合 計		76.0

● 4 : 防災・減災・地域づくり事業「第1回 自由ヶ丘町会 自主防災会 避難訓練事業」 ／自由ヶ丘町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 自主防災組織を立ち上げてから初めての訓練ということだが、住民同士が俊敏に動けるような体制はできているか。

A : 町会の総会があった時に、防災安全課の出前講座を行ってもらった。住民の顔と名前が一致しないということもあるので、班長を中心に動くことになり、どうなるか未知数な部分もある。訓練を何もしないと、いざというときに大変なことになるので、少しずつ訓練を継続して、住民の意識を高めていきたい。

Q : 年に1度の訓練だと、住民の意識づけが難しいのではないかと感じたが、来年度以降の展開として考えていることがあれば教えていただきたい。

A : 初めての防災訓練ということで、婦人部が中心になって動けば、女性の視点での気づきがあると思うので、いろいろと話をしながら進めていきたい。自由ヶ丘町会は、市内でも雪が多く降る地域の1つなので、将来的には冬場にも訓練ができるようになればいいと

思う。

Q：実際に災害があった時に雨が降っている場合、一度公園に集まってから避難所である南高校に行くのは大変なのではないかと感じたが、雨の場合はどのような想定をされているのか。

A：町会にもテントを6張ほど用意しているが、大雨の場合は直接南高校に行ったほうが良いと思う。地震のときは公園に集まる、授業の時間だったら一度公園に集まるなど、ケースバイケースで、南高校と連携しながらやっていけるようにしたい。

【主な意見】

- ・青森県防災士会などの第三者の視点を入れて訓練を行おうとしているのがよいと思う。また、訓練後に実施した内容と結果を、町会にフィードバックする流れまで作っておくと、非常に有意義な訓練になると思う。
- ・これまで1%システムに申請があった防災訓練は、地震を想定した訓練が多かったと思うが、災害の種類によって訓練の仕方も変わってくると思うので、地震にこだわらず、さまざまな災害を想定して続けていただきたい。
- ・西部仲町自主防災会（29年度2次採択事業）の事業を参考にすることで、防災訓練のような、どの地域でもやらなければならない事業がマニュアル化され、他の町会にも広がる可能性が出てきたように感じた。

【採択結果】

合計点 74.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		74.6

【質疑応答（抜粋）】

Q：介護教室の対象となる方々には、どのように周知していく予定か。

A：随時インターネットを通じて発信したいと思っているが、SNSなどは、対象となるような人がすべて活用しているとは限らないので、一律に告知するために、広報ひろさきが一番確実なので、掲載を依頼したいと思う。

Q：今回の介護教室は1回のみで開催予定となっているが、回数を増やす、拠点づくりをするといった将来の展望などあれば教えていただきたい。

A：ゆくゆくは年に数回のペースで実施していきたい。今回の講座は3～4時間1セットとして考えているが、講座を分割しながら各所で実施していくとなると、一番いいのが町会だと思うので、老人クラブなどに声掛けをしていくこともできるのではないかなと思う。

Q：今後広い地域で継続していくために、1つの団体ではフォローしきれないと思うので、講師を育てていったり、同じような活動をしている団体と連携するなど、将来の展望があれば教えていただきたい。

A：市全体となると、行政がからんできて難しいかもしれないが、講座で教える時にどんな話をして、どのように対処しているのかなど、今回は団体スタッフも講師の立場として、勉強する意味を込めて講座を開催したいと思っている。現在の介護保険は、要介護者のための保険であって、介護者のサポートではないので、介護者のサポートという視点で考えながら講座を開催していきたい。

【主な意見】

- ・市内でも老老介護などが増えてきているので、男性が介護できるようになることは素晴らしいと思う。今知識を得ておくと、介護するときはもちろん、将来介護される側になったときにも役立つと思う。
- ・介護予防教室を開催しても、女性の参加が多く、参加しづらいせいか、男性の参加が少ない。「男の介護教室」とすることで、同じ立場の人同士が知り合うことができ、男性にとっていい居場所づくりになる可能性があると感じた。
- ・実際に介護する立場になった人の心のケアの部分に着目して、男性介護者とその世帯を孤立させない取り組みにつなげていきたいという部分に、非常に意義があると思うので、町会の民生委員や老人クラブ等に周知するなどして伝えていただきたい。

【採択結果】

合計点 83.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合 計		83.1

● 11 : 雪でドドド ～五感で楽しむ祭りだじゃ～/ドドド実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

・特になし。

【主な意見】

・特になし。

【採択結果】

審査保留

※当初借りる予定であった会場が急遽使用できなくなったため、計画を変更。

審査委員会の意見により、第3回審査委員会で公開プレゼンテーション・審査を行うこととなった。

9月17日審査結果 (16事業のうち4事業)

採択とする事業	3事業
審査保留	1事業

3次募集事業の審査結果 (30事業) 6月17日～19日審査合計

採択とする事業	25事業
不採択とする事業	4事業
採択辞退事業	1事業